

国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



人生100年時代の実現へ

～泌尿器科領域において最先端の低侵襲治療を提供します～

統括診療部長、地域医療連携センター長 菊川 浩明

泌尿器科部長 前田 喜寛

特集

泌尿器科のご紹介

- VOICE
- 医学シリーズ 脳神経外科
- くまびょう TOPICS
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 外来担当医名簿

患者さまをお待たせしないためにご紹介は、
外来紹介予約センターをご利用ください。



熊本医療センター
地域医療連携センター長
菊川 浩明



096-353-6565
096-353-6566

FAX 096-353-6563

受付 平日 8:30 ~ 17:00

国立病院機構熊本医療センター 外来紹介予約センター

独立行政法人国立病院機構
熊本医療センター

National Hospital Organization Kumamoto Medical Center



熊本医療センター 検索 ホームページ QR コード

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 政策医療の推進
2. 救急医療とがん診療の推進
3. 開放型病院による医療連携の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



当院泌尿器科では6名の泌尿器科医で「がん診療」ならびに「救急疾患」を中心に診察を行っています。救急疾患に関しては24時間、365日尿路外傷や尿路感染症（結石性腎盂腎炎など）に伴う敗血症、ショック状態など重篤な患者さまの治療にも対応しております。がん診療に関しましては当院ががん診療連携拠点病院ですので標準的な治療はすべて行っていますが超高齢化社会を迎え治療のあり方も身体にやさしい治療が求められるようになってきました。そのため、当科ではより積極的に「身体に負担の少ない・やさしい＝低侵襲治療」にも取り組んでいます。前立腺癌治療に関しましては、「前立腺を切除しない」密封小線源治療（シード治療）を推進してきました。平成26年3月より開始しており、これまでに約550例の経験を得ました。再発例は5例のみで手術療法10分の1以下であり、手術療法の合併症としてみられる尿失禁、勃起障害（ED）にもほとんど影響を与えないなど、がん制御と機能温存といった患者さまのニーズに合った治療法として定着しました。さらに平成30年から全例にスペースOARシステムを導入し、放射線合併症防止にも努めています。また、令和3年12月にMRI-超音波融合前立腺生検が可能ナトリニティ®を導入しましたので、これまで以上にがんの局在診断あるいは臨床的意義のあるがんの判別が可能になりました。これに関しては、第111回日本泌尿器科学会総会ランチョンセミナーにて当科鮫島医長がAI技術を用いた医療新技術として報告しています。

そのため倫理委員会承認の上シード治療を用いた前立腺がん部分治療(Focal therapy)を開始しています。令和6年3月からはダビンチ Xiを導入しましたので、ロボット支援下前立腺全摘除術を開始しています。前立腺がんの手術を希望される患者さまのニーズにもお答えできる環境も整いました。

腎癌に対しましても令和元年5月より小径腎がん（4cm以下）に対して凍結治療（クライオセラピー）を開始しました。全国で26施設目の導入であり（国立病院では初）、専用の凍結針でがんを凍らせて死滅させる治療です。局所麻酔で可能であるため、御高齢の方や合併症が多い方、片腎の方などには良い適応になります。治療成績は摘出手術と比べ5年生存率は95%以上とほぼ同等です。当科ではこれまで88例経験しました。さらなる低侵襲治療として確立していきたいと考えています。これら当科ならではの治療に関しては2024年6月17日産経新聞一面に“がん治療の今”として掲載されました。当院玄関のデジタルサイネージにもアップしていますので当院へお越しの際には目を通して頂ければ幸いです。このように当科では良質で安全な医療は当然のことながら最先端の低侵襲治療、いわゆる体に優しい治療提供を継続できるよう泌尿器科スタッフ一同努めてまいります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。





院長 たかしお せいじ 高潮 征爾



◆ 貴院のアピールをお願いします

循環器専門医として培った経験を生かし、「疾病予防に基づく健康寿命の延伸、たとえ循環器疾患に罹患したとしても安心して生活ができるような医療提供体制および地域作り」に貢献出来ればと思います。院内には心エコーや生化学検査および心臓バイオマーカー測定機器を有しており、迅速に循環器疾患に対応することが出来ます。また外来心臓リハビリテーションを行っており、心臓リハビリテーション指導士および心不全療養指導士の資格を持った理学療法士が在籍しています。

◆ 先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

趣味は「仕事です」というと面白みがないのですが…患者さんのデータをまとめたり、問題解決のためにどうするのが良いのか？何をすればもっと良い医療が出来たのかをいつも考えています。今後ボランティアや地域の活動に参加が出来ればいいなと思います。おすすめのスポットは江津湖で湖畔を散策すると、心と体をリセットすることができます。

◆ 当院へのご要望をお聞かせ下さい

貴院の循環器内科のスタッフの方々が熱心に循環器疾患の面白みを伝え、ロールモデルとなる先生が多いためでしょうか、熊本大学病院循環器内科には多くの熊本医療センター出身の優秀な研修医の先生が入局してくれていました。循環器内科にとどまらず「若き良医を育てる熊本医療センター」として臨床および教育に注力してくれることを期待しています。



【診療科目】

内科・循環器内科・心臓リハビリテーション科

【受付時間】

8:45 ~ 12:00 / 14:00 ~ 17:30

【休診日】

水曜午後・土曜午後・日曜・祝祭日

【住所】

〒862-0969 熊本市南区良町4丁目4-11

【TEL】

096-370-5555

【FAX】

096-370-3300

【HP】

<https://takashio-hc.com>



最近のトピックス

三叉神経痛について

国立病院機構熊本医療センター
脳神経外科部長なかがわ たかし
中川 隆志

三叉神経痛とは？

歯を磨く、顔を洗うだけで激痛が走る、そんな経験はないですか？虫歯と間違えそうですが、ほほやあごにも痛みがあると三叉神経痛の可能性があります。三叉神経は「顔の感覚」を脳に伝えているので、強い刺激が加えられると脳が痛みとして感じてしまいます。三叉神経は顔の左右にあるため片方が痛むのが特徴です。



痛みの特徴は？

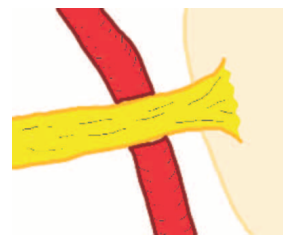
三叉神経痛は非常に鋭い痛みで、しばしば電撃痛と表現されます。顔面の特定部位に何か触れただけで痛みが発生するため、「歯磨き」「洗顔」「化粧」「ひげそり」「物を噛む」など、日常のありふれた動作でも激痛が起こります。刺激となる動作を避けて生活するため日常生活に大きな支障をきたします。

痛みのきっかけ

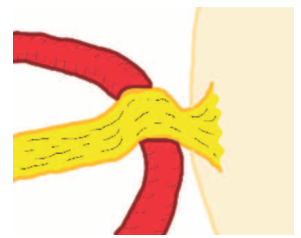


痛みの原因は？

三叉神経痛の原因には、帯状疱疹ウイルス、脳腫瘍などがありますが、最も多いのは、「血管による圧迫」です。脳幹から出た三叉神経の周囲には動脈が走っています。加齢や高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病によって動脈硬化が進行し、動脈の走行が変化すると、曲がった動脈が三叉神経の起始部に当たり神経を圧迫します。その圧迫が刺激となり、痛みが引き起こされます。



① 正常



② 圧迫（神経が歪む）

治療法は？

カルバマゼピンという抗てんかん薬は神経の興奮を抑えることで痛みを抑制します。多く服用すると効果は高いですが、眠気、ふらつきなどの副作用が出ることがあります。少量から内服を開始しますが、時間経過とともに効果が薄れる場合があります。治療薬で改善がない場合、三叉神経を圧迫している血管を神経から引き離し、再び神経を圧迫しない場所に固定する「微小血管減圧術」を行います。手術以外には、ボトックス注射という筋肉の収縮を抑制する治療があります。ボトックス注射は、眼瞼下垂、顔面神経麻痺等の副作用があり、いずれは効果が切れる時期がきます。また、ガンマナイフ治療というガンマ線を照射して症状を改善する放射線治療もあります。現在、保険適応は認められておらず、効果が出るまでに数カ月かかります。



9/26・27(木・金) | 病院機能評価受審を終えて
9/30(月)

事

【筆者】庶務班長：坂田 勇輔



9月26日(木)、27日(金) および30日(月)の計3日間、病院機能評価の受審に臨みました。26、27日は一般機能、30日は高度・専門機能(救急)の審査が行われ、サーベイヤーの方々から厳しいご指摘や今後に関わる多くのアドバイスをいただきました。

一般機能の審査では、1日目に病院幹部、各分野ごとの面接調査を中心に病院側が指定した病棟と機能評価機構が指定した病棟についてケアプロセス調査が実施されました。ケアプロセス調査では診療サーベイヤー、看護サーベイヤーそれぞれの専門的な目線からの鋭い質問が印象的でした。2日目は部署訪問が行われ、様々な視点から厳しいチェックがあり、日頃から細かな所まで気にして行動しなければならないと痛感しました。

高度・専門機能(救急)の審査は、今回のバージョンから一般機能と同様の審査内容となっており、前回受審時に行われなかったケアプロセス調査やカルテレビューの項目が追加され、より厳しい審査内容となっていました。

3日間の審査を通して、熊本医療センターの病院機能について全体的に高評価をいただきホッとする半面、ご指摘いただいた改善点を真摯に受け止め、さらに一歩先へ進むことが必要だと感じます。病院機能評価の受審は、病院全体で取り組むものであり、職員の皆様のご協力なしには成り立ちません。この場を借りて、改めて感謝申し上げます。

【場所】熊本医療センター



9/9(月) | 熊本県より救急医療功労者の表彰を受けました

医

【筆者】教育研修部長：瀧 賢一郎



令和6年9月9日、熊本テルサにおいて熊本県木村知事より救急医療功労者表彰状を授与されたことをご報告いたします。長年、当院での救急医療関連の教育、手術センター、ICU部門を支えてきたという点においての表彰です。救急医療は当院のがん診療に並ぶ診療の柱であり、この表彰は30年間一緒に働いてきたスタッフ皆様のものであります。特に手術センター部門、ICU部門の皆様には感謝するとともに今後もよりよい病院になるよう協働してまいりましょう!



9/25(水) | 第205回救急症例検討会(特別講演)が開催されました。

医

【筆者】救命救急部長：櫻井 聖大



令和6年9月25日(水)、研修センターホールにて、第205回救急症例検討会が開催されました。同会は年に7回開催されますが、毎年9月開催分は特別講演となっており、御高名な先生に来院頂き、救急領域に関連した内容の御講演をいただいています。

今回は大分大学医学部附属病院高度救命救急センター長で教授の安部隆三先生をお招きし、「チームでつなぐ救命の連鎖～病院前から病院内まで～」というテーマでご講演いただきました。テーマのごとく、大分県や前任地である千葉県における病院前診療の現状や、来院後の重症患者さまの診療、Rapid response systemの現状と課題について等、救急医療の一連の流れについてご講演いただきました。

他県の救急医療の現状を、睡眠学習になることなく知ることができ、ご参加いただいた医師、看護師、コメディカル以外にも、消防の方々にも有意義な会だったのではないかと思います。

【場所】2F 研修センターホール



Medical Intern Report 研修医レポート

臨床研修医

ほしの あかね
星野 朱音



こんにちは。研修医1年目の星野朱音と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターで初期臨床研修を開始して半年がたとうとしております。学生時代とは生活が一変し、毎日がめぐるましく過ぎていきますが充実した日々を過ごしています。

半年の中で4つほどの診療科を回らせていただきましたが、どの診療科でも丁寧にご指導いただき、どのように患者さまに接すれば聞きたいことを話してもらえるようになるのか、信頼してもらえるのかという医師と患者の関係性についてや、看護師さんに指示や連絡事項を伝えるときの注意事項など、円滑なチーム医療を提供するためのコツといった人間関係を学ぶ

ことができました。また、業務的な内容に関しては縫合や結紮といった基本的な手技をはじめ、様々な診療における基本を学ばせていただいています。

日中の各診療科での研修に加え、夜間の救急対応にも参加しており、最初は次々と救急搬送される患者さまを前に立ち尽くすばかりで自分の無知、無力さを痛感させられました。今でもまだ単独でできることはわずかですが、2年目の先生にアドバイスしてもらいながら救急現場での診療や手技のノウハウを学んでいます。1年後には先輩方のように頼れる存在となれるよう、一番後輩である今のうちにわからないことはどんどん質問し、一歩ずつスキルアップしていけるよう努力したいと思います。

まだまだ不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが皆様のお役に立てるように2年間精進してまいりたいと思っています。2年間どうぞよろしく願いいたします。

臨床研修医

まつい あんり
松井 杏里



こんにちは。研修医1年目の松井杏里と申します。熊本医療センターで初期臨床研修を開始し約半年が経とうとしております。この半年間で、消化器内科、糖尿病代謝内科、小児科、産婦人科を回らせていただきました。4~6週間ごとに診療科が変わるので、目まぐるしい毎日ですが、その分充実しています。消化器内科では超音波検査や内視鏡検査を、糖尿病代謝内科では糖尿病の治療薬やインスリン注射の調整について学びました。小児科では外来診察や採血をさせていただき、産婦人科では手術に参加させていただきました。どの診療科でも多くの経験をさせていただき、大変りのある研修となりました。

また週に1回程度、救急外来でも研修させていただいており

ます。初めは次々と救急搬送される患者さまを前に立ち尽くすばかりで、自分の無知と無力さを痛感させられました。今でもどうしたらいいか迷うこともありますが、救急の先生方や2年目の先生方からアドバイスをいただきながら、救急現場での診察や手技を学んでいます。1年後には先輩方のように頼れる存在となれるよう、「日々是鍛錬」をモットーに努力していきたいです。

日々の研修の中で上級医の先生方や2年目の先生方、コメディカルスタッフの方々に知識面や手技、業務についてたくさん教えていただき、大変感謝しております。失敗することもまだまだ多く、落ち込む日もたくさんありますが、仲間思いの同期に囲まれ、モチベーションを保ち楽しく過ごすことができている。これからの研修生活でも多くの壁が待ち受けていると思いますが、同期と共に乗り越えていきたいです。今後よろしく願いいたします。

2024年11月 研修のご案内

第167回 公開看護セミナー

日時▶11月2日(土) 13:00～15:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「穏やかだけれど芯がある。しなやかな心の創り方」

EQ college 山本トースネスみゆき 先生

二の丸モーニングセミナー

日時▶11月7、14、28日(木) 8:15～8:45 (28日は未定)
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

歯科 救急蘇生講座

日時▶11月7日(木) 19:30～21:30
場所▶国立病院機構熊本医療センターラボセンター

国立病院機構熊本医療センター教育研修部長/麻酔科部長 瀧賢一郎ほか

第76回 診断と治療－最新の基礎公開講座－ 〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶11月9日(土) 15:00～17:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「脂肪性肝疾患の最近の話題 ～NASH・NAFLDからMASH・MASLD～」

座長 大野内科クリニック院長 大野 靖一 先生

(1) 脂肪性肝疾患の診断 国立病院機構熊本南病院消化器内科部長 中田 成紀 先生

(2) 脂肪性肝疾患の治療 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 立山 雅邦

(3) 脂肪性肝疾患：病態栄養の立場から
熊本大学大学院医学教育部臨床国際協力学 /
国立病院機構熊本医療センター栄養管理室管理栄養士 山下 晶穂

(4) 脂肪性肝疾患の病態：基礎から臨床まで
熊本大学大学院生命科学研究部消化器内科学講座助教 渡邊 丈久 先生

第149回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会

日時▶11月13日(水) 17:30～18:30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

熊本県臨床衛生検査・ 一般検査研究班月例会【WEB】

日時▶11月14日(木) 18:00～20:00
場所▶国立病院機構熊本医療センターラボセンター

令和6年度 第4回肝臓病教室

日時▶11月15日(水) 13:00～14:15
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

第307回 月曜会(内科症例検討会) 〔日本医師会生涯教育講座1.0単位認定〕

日時▶11月18日(月) 19:00～20:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1 消化器内科からの一例 2 脳神経内科からの一例

小児科火曜会【WEB配信あり】

日時▶11月26日(火) 19:00～21:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室1

第206回 救急症例検討会(未定)

日時▶11月27日(水) 18:00～19:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

「航空医療 / 熊本県へり救急運航調整委員会症例検討部会」

熊本県臨床検査技師会・ 病理細胞部門

日時▶11月28日(木) 18:30～20:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修ホール

研修へのお問い合わせはこちら
国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター (096) 353-3515 (直通)

研修センター
QRコード▶





令和6年11月外来担当医名簿

国立病院機構熊本医療センター

| 診療科 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|---------------------|---|--|---|---|---|------------------------------------|-------------------------------------|
| 総合医療センター (内科) | 総合診療 | 辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 | 辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 | 辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 | 辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 | 辻 隆宏 國友 耕太郎 吉村 文孝 久保崎 順子 | |
| | 血液 | 河北 敏郎 杉谷 浩規 | 原田 奈穂子 田口 詢 | 樋口 悠介 渡辺 美穂 | 日高 道弘 河北 敏郎 | 原田 奈穂子 窪田 晃 | |
| | 糖尿病・内分泌 | 西川 武志 (午前新患) 西田 周平 (午前再診) | 西田 周平 (午前新患) 西川 武志 (午前再診) | 西川 武志 (午前新患) 井手口 拓弥 (午前再診) | 木下 博之 (午前新患) 瀨戸口 真衣 (午前再診) | 井手口 拓弥 (午前新患) 木下 博之 (午前再診) | |
| | 呼吸器内科 | 熊大医師 (院内コンサルト) | | | | | |
| | 感染症内科 | 小野 宏 | | | | | |
| | 腎センター (腎臓内科) | 梶原 健吾 (CKD外来) | 吉井 隆一 | 小野 宏 | 中村 朋文 (CKD外来) | 東 大樹 | 小野 宏 富田 正郎 (PD外来) (療法選択外来) |
| 腫瘍内科 | 境 健爾 | 境 健爾 榮 達智 | 境 健爾 榮 達智 | 境 健爾 榮 達智 | 境 健爾 (1.3.5週) | 境 健爾 (2.4週) 榮 達智 | |
| 消化器病センター (消化器内科) | 診察 | 1診 | 楠本 周平 | 杉 和洋 | 杉 和洋 | 立山 雅邦 | |
| | | 2診 | 松山 太一 | 立山 雅邦 | 花園 ゆりか | 花園 ゆりか | |
| | | 3診 | 山本 祐弥 | 赤木 由理恵 | 佐々木 大亮 | 理々木 大亮 | |
| | 内視鏡 | 午前 | 立山 雅邦 佐々木 大亮 花園 ゆりか 赤木 由理恵 | 松山 太一 佐々木 大亮 楠本 周平 山本 祐弥 | 松山 太一 楠本 周平 山本 祐弥 | 立山 雅邦 佐々木 大亮 花園 ゆりか 山本 祐弥 | 松山 太一 周平 祐弥 山本 祐弥 |
| | | 午後 | 立山 雅邦 佐々木 大亮 花園 ゆりか 赤木 由理恵 | 松山 太一 佐々木 大亮 周平 祐弥 花園 ゆりか | 立山 雅邦 松山 太一 楠本 周平 山本 祐弥 | 立山 雅邦 佐々木 大亮 花園 ゆりか 山本 祐弥 | 松山 太一 周平 祐弥 山本 祐弥 |
| | | 腹部超音波 | 杉 和洋 | 花園 ゆりか | 立山 雅邦 | 岡本 有紀子 赤木 由理恵 | 杉 和洋 |
| 心血管センター (循環器内科) | 新患 | 木村 優一 山村 智 | 玉野井 俊介 有馬 義博 (隔週) | 片山 哲治 | 田山 信至 | 松原 純一 | |
| | 再来 | 田山 信至 | 松原 純一 | 山村 智 | 玉野井 俊介 有馬 白尾 | 片山 哲治 木村 優一 | |
| (心血管外科) | 手術日 | | | | | | |
| 精神・神経科 | 初めの方 | 岡本 健 | | | | | |
| | 2回目からの方 | 岡本 健 | | | | | |
| 小児科 | 診察 | 水上 智之 | 興梠 雅彦 | 水上 智之 | 水上 智之 | 渡邊 優 | |
| | 免疫 | 水上 智之 | | 水上 智之 | 水上 智之 | | |
| | 血液 | 右田 昌宏 | | 横山 智美 | | 右田 昌宏 | |
| | アレルギー | | 渡邊 優 | | | | |
| 外科 | 中尾 陽佑 日高 香織 (隔週) | 水元 孝郎 松本 克孝 小野 明日香 | 岩上 志朗 | 宮成 信友 黒木 秀幸 | 久保田 竜生 | | |
| | 脳神経センター (脳神経外科) | 中川 隆志 大塚 忠弘 | 手術日 | 堀 遼太 大塚 忠弘 | 中川 隆志 | 伊東山 剛 大塚 忠弘 | |
| (脳神経内科) | 1診 | 幸崎 弥之助 | 田北 智裕 | 高松 孝太郎 | 小阪 崇幸 | 津田 幸一 | |
| | 2診 | 高松 孝太郎 | 小阪 崇幸 | 津田 幸一 | 幸崎 弥之助 | 田北 智裕 | |
| 整形外科 | 午前 | 1診 | 満瀬 葉介 (新患) | 前田 智 (新患) | 寺本 周平 (新患) | | |
| | | 2診 | 福元 哲也 (新患) | 福元 哲也 (新患) | 中馬 東彦 (新患) | | |
| | | 3診 | 福田 和昭 (新患) | 福田 和昭 (新患) | 東 宗一郎 (新患) | | |
| | 午後 | 1診 | 寺本 周平 (再診) | 松下 祥大 (再診) | 満瀬 葉介 (再診) | | |
| | | 2診 | 福元 哲也 (再診) | 東 宗一郎 (再診) | 中馬 東彦 (再診) | | |
| | | 3診 | 福田 和昭 (再診) | | | | |
| 泌尿器科 | 前田 喜寛 (毎週) 担当医 | 菊川 浩明 敏島 智洋 高橋 えりか | 担当医 (手術日) (紹介のみ) | 前田 喜寛 矢野 大輔 村上 栄敏 | 菊川 浩明 担当医 | | |
| 産婦人科 | 高木 みか 瀬尾 優太郎 | 山本 直 坪木 純子 前田 菜々 | 手術日 | 高木 みか 坪木 純子 瀬尾 優太郎 | 山本 直 前田 菜々 | | |
| 感覚器センター (眼科) | 榮木 大輔 中原 敦子 渡邊 隆弘 | (手術日) | 榮木 大輔 中原 敦子 渡邊 隆弘 | (手術日) | 榮木 大輔 中原 敦子 渡邊 隆弘 | | |
| 感覚器センター (耳鼻咽喉科) | 手術日 | 上村 尚樹 寺田 夕希 | 手術日 | 担当医 | 上村 尚樹 寺田 夕希 | | |
| 感覚器センター (皮膚科) | 初診 (紹介あり) | 石橋 卓行 | 牧野 公治 | 浦田 和美 | 担当医 | 石橋 卓行 | |
| | 再診 (初診その他) | 浦田 和美 石橋 卓行 | 哈 斯塔 (ハスタ) 牧野 公治 | 石橋 卓行 浦田 和美 | 担当医 (手術日) | 哈 斯塔 (ハスタ) 牧野 公治 石橋 卓行 | |
| 難治性皮膚疾患治療センター | 午前10時~、1日1例限定 詳細は、熊本医療センター皮膚科 Web サイトをご覧ください | | | | | | |
| 形成外科 | (午 後) 大島 秀男 (リンパ浮腫外来) 蓮田 敏也 堺 菜穂 | (午 後) 担当医 (紹介のみ) | 手術日 | (午 後) 大島 秀男 蓮田 敏也 堺 菜穂 | (午 後) 大島 秀男 志志 敏也 | | |
| 放射線科 | 治療 (予約制) | 富高 悦司、大塚 崇裕 | | | | | |
| 画像診断 | 根岸 孝典、浅尾 千秋、伊藤 加奈子、井上 聖二郎、神戸 あゆみ、大塚 崇裕、吉松 俊治 | | | | | | |
| 麻酔科 | 宮崎 直樹 (術前診察/麻酔相談) | | | | | (午前のみ) 瀧 賢一郎 (麻酔相談) | |
| 緩和ケア外来 | 境 健爾 | 境 健爾 | 境 健爾 | 境 健爾 (1.3.5週) | 境 健爾 (2.4週) | | |
| 歯科 口腔外科 | 森 久美子 谷口 広祐 眞有香 上田 夏野 | 中島 健 森 久美子 眞有香 上田 夏野 | 中島 健 谷口 広祐 眞有香 上田 夏野 | 中島 健 谷口 広祐 眞有香 上田 夏野 | 中島 健 谷口 広祐 眞有香 上田 夏野 | | |
| 救命救急センター | 櫻井 聖大 洪沢 崇行 橋本 聡 松本 克孝 國友 耕太郎 吉村 文孝 深水 浩之 大樹 寛之 大樹 寛之 | 櫻井 聖大 洪沢 崇行 橋本 聡 國友 耕太郎 久保崎 順子 深水 浩之 大樹 寛之 | 櫻井 聖大 洪沢 崇行 橋本 聡 松本 克孝 深水 浩之 大樹 寛之 | 櫻井 聖大 洪沢 崇行 橋本 聡 松本 克孝 深水 浩之 大樹 寛之 | 櫻井 聖大 洪沢 崇行 橋本 聡 松本 克孝 深水 浩之 大樹 寛之 | | |
| 看護外来 | ストーマ | 認定看護師 | 認定看護師 | 認定看護師 | 認定看護師 | | |
| | がん看護 | 認定看護師 | 認定看護師 | 認定看護師 | 認定看護師 | | |
| | 移植後フォローアップ | 担当看護師 | 担当看護師 | 担当看護師 | 担当看護師 | | |

(注) 担当医は都合により変更することがあります。手術日はお待たせする場合がございますので、御了承ください。

